

ふつうのセックスが好きな恋人とどすけべセックスしたい

会社員としての生活を数年送って、いつの間にかチョコレートに浮かれるような年齢ではなくなった。職場の女性達からそれなりのチョコをいただいで、それ以上のお返しを求められるのだから、むしろ若干のマイナスイメージすら覚える。

それでも、二月になればバレンタインデーというイベントを意識してしまう。気になるのは、いただいでしまうと面倒な小箱をいくつももらえるかではなく、昨年の夏から付き合い始めた恋人——晶のことである。

俺も、チョコレートを用意した方がいいのだろうか。晶も用意したりする？ 甘いものは好きって言ってたっけ？ あげるなら、良いものを贈りたいけれど、催事場やってるようなデパ地下に男ひとりで乗り込むのはちよつと微妙だったり？ そもそも、チョコレートよりも物品の方が良かったりするの、かなどなど。考え出したらキリがない。

二月に入ってから特には、テレビをつければバレンタインデーの話題ばかり。そんなの、意識してしまうに決まっている。

まあでも、こういうのって結局買わないで終わったりするものだ。付き合いはじめて最初のイベントごとは無難に様子見。相手の温度差を確認してから、次回以降からが本番。そんな感じで昔から過ごしてきた。

バレンタインデーという特別行事をバッチリ意識しながらも、そんな風に自分の中で結論を出したはずだった。

* * *

月が変わってから早一週間が経過した。相変わらず、どこもかしこもバレンタインデーのことばかりである。普段行っているスーパーもコンビニも、どこも可愛らしい装飾で賑わっている。

週末の夜は、晶が家に泊まりにきて、そのまま休日と共にすることが多い。この日もその予定で、拓海はコンビニで適当に食材と酒を買い漁り、先に帰宅して晶が来るのを待っていたのだが、突発的な残業で到着が少々遅れると連絡が入った。マンションのエレベーターに乗り込みながら、返事を打ち込んでいく。

『おつかれ、ゆっくりでいいから待ってるね。目処ついたら連絡して、駅まで迎えに行くから』

『えっ、それは拓海に悪いだろ』

『いいって、晶に早く会いたいただけだから』

あれ、なんかちよっとくさすぎたかも。メッセージを送信してからふと思っただが、嬉しそうなスタンプを受信して安心する。

コンビニ袋の中身を冷蔵庫にしまいこみ、暇つぶしに適当にSNSを開いていく。いずれも、拓海が現在更新しているものはなく、基本的に見るためのアカウントばかりである。学生時代からの友人だったり、会社勤めを始めてからの繋がりだったり。

用途ごとにアカウントを分けているのだが、中でも最近よく見ているのは、いわゆる裏垢というものである。本名に掠りもしない名前、一切顔の写っていないアイコン画像。誰が見ても、その中身が自分であるとわからないようなアカウント。実社会での友人知人はもちろん、恋人である晶にも内緒にしている。それを使って見ているのは、とある界限で有名な男性のアカウントだ。顔にはモザイクがかかっていることがほとんどだが、恐らく同年代だろうと拓海は考えている。その男性が、やや歳上らしき男性パートナーや、複数男性から辱められる動画や画像を投稿している。

——拓海にとっての裏垢とは、つまりはおかず用、厭らしいものを見るための、秘密のアカウントなのだ。

不定期に更新されているそのアカウントは、日常的な投稿を一切行わない。厭らしい動画や画像が、数日おきに更新されるのみである。それでも、週末に更新されることが多いため、もしかしてと思っただけでアカウントページを開いてみると、案の定動画の更新がされていた。

際どいサムネイル画像に添えられていたのは、刺激的なバレンタインデーに